

昭和16年10月1日（水）

台風は九州南部に上陸。午前六時、午後六時までには中部を衝くものと思料すとあり。風雨猛し。午後二時頃、裏の板塀、小径を越して隣地の板塀に倒れかけ、一緒に倒潰す。襦袢は椽（えん）に糸を張り吊す。六時金谷堤防決潰、向かい側に氾濫、道路を越して北側に流れ屋内に流れ入る。硝子窓の破損一ヶ所。電燈故障の為、点燈せず。ラジオも午後より送電線異状あり。活動を停止せり。汽車も不通。電信話共に不通。小包書留等取集に来たらず。夜に入り警鐘乱打、消防を集め、金谷堤の拡大崩壊を防ぐ。政恵氏午前十一時、暴風雨を冒して乳呉れに来て下さる。夜の分は配達の牛乳にて間に合わせ、再び来て下さる政恵氏に断るべく、ミワさん四時半頃出発。中殿街路、水に浸りて屋内にも浸水を見ると。一日とて商店の大方は休み。前田氏、昨五円余の欠損金に対し、半数弱支給してやる。同氏を招き懇示す。伊勢さん泊まる。

昭和16年10月2日（木）

夜半より曇り。七時頃より風力衰え、雨も次第に小降りとなる。朝猶、幾分小雨模様の処ありしなるも、次第に霽れ擧がり、秋晴れの上天気となる。便所隠し戸流出、ミワさん金物屋、埃溜にある似寄りの板を見付け来たり。後刻金物屋に到り、承諾を求めて持ち来らる。横田大工さん本朝より来たり。勝手の戸裏の板塀の倒壊を修理完成の上、出入り口の戸をも改造さる。二時半御茶を出し、菓子きんつば饗す。午後四時半頃、夕食を済まし五時、湯に行かる。坊を五時二十五分連れ行き、其の儘、乳貰ひに行かる。此日は不思議に泣かず。時刻早かりし為

なるべきか。金光様詣りの一団、此日出発。昨日より為替を野口さんに頼む。電燈、九時半頃、昨夜点火す。水道は本朝、水出づ。

昭和16年10月3日（金）

快晴、午後より次第に曇り。気温暖かなり。切手請取り及び請求とも、余行く。横田大工さん今日は表の格子、小包受渡し口車等完成。ミワさん午後4時半の汽車にて金光5, 05行き、明朝午前3時過ぎ着の由。切手請求までやり上げて出発さる。坊八時まで眠らず。大いに閉口せり。電燈を消しラジオを止め、やっと眠る。夫れより仕事にかかる。十時寢床。

昭和16年10月4日（土）

夜来空模様悪しきも、降るに至らず。朝、坊を負ふて仕事す。七時乳貰ひに行く。雨降り居り、幾分碧空を見、霽るるかも知れぬ程度なりし。切手代払込みに行く際も和傘持参。今日は全く降雨、終日歇まず。貢氏より来翰。豊島区西巢鴨1の3277とあり。大いに更生の意気に燃えつつあるを示す。坊や眠る僅かの時間を見て仕事をなす。直ぐに起き、母堂では一層音高く叫（な）く。襦火にて乾燥して頂く。窓口計量置き場二ヶ所、造作机作る。切手請求の為、朝の新聞も見ることを得ざりし。朝の間は万一霽るることあらんと、一縷の望みを囑したりしが、此の希望を裏切り、遂に豪雨と化し雨量も頗る多きを見る。坊七時睡る。漸く我に返り仕事を續く。

昭和16年10月5日（日）

六時坊にタオルにて拭ってやること、例の如し。負ふて

掃除す。七時を過ぎ十分、漸く出発するを得たり。七時四十分帰る。ミワさん帰宅、教会に一同と行かる。八時過ぎ一緒に朝食を摂る。饅頭土産に持来らる。一ヶ横田に、神酒も一本遣らる。甘酒の瓶詰め一本求め来らる。此の日朝の間細雨、次第に雲薄く、午後より霽れ快晴となる。五時十五分風呂に連れ行く。其の足で坊に乳貰ひに行かる。大工さん、二階の戸のサン、裏の物乾、便所の隠し、余の踏み板等半日にて仕上げ。茶菓を餐し一時頃退去さる。森田さん西牟田の妹さん迎えに来たり。午後行かる。一汽車の間隔予定にて行かれたるも、そうは帰るわけに行かぬらしく、想像通り大分遅くまで居られたるらし。今日は坊の守りをミワさんに頼み、多く仕事をなす。森田さん九時過ぎ飯る。

昭和16年10月6日（月）

曇り、時々陽射しあり。23, 83円、本日横田氏に支払ふ。夜、鰻幾切れか持来らる。切手請求、資金請求を兼ね、正午頃行く。切手は未だ出て居らず。木下主事に、前田事務員に採用のことを報告す。西牟田氏退職の件も聞きて見る。結核に非ずと云ふ。夕方模様悪くなる。朝髭剃りす。気温高し。母堂に衡器覆いを造って貰ふ。夜森田さん等活動に行けるらし。十時頃帰らる。

昭和16年10月7日（火）

夜半より豪雨。朝に至り歇むも、七時過ぎ小雨降る。折角乾きかけた襦袢、濡らす疑いあり取り込む。其の後の天候順調、快晴となる。母堂、衡器の覆いを調製賜はる。切手類受取に行く。其の前、木下主事より写真の要求あり。局内に掲出し置くらし。帰るや藤岡姉さん訪ねて来る。

之を座敷に招じて咄を聞く。曰く、久子妊孕（にんよう）すと。而して達郎の病氣、猶ラッセル聞こゆ。熱は七度に達せず。医師は恢復を予期せず、或いは惧る。一年余に渉ることあるべきを。久子の分娩は来春二月初めならん。入院の上、兩人を如何に措置するやが問題なりと色々咄さる。広瀬未一の許に嫁したき旨、之が幹旋方を道子等に屢々申し出でたる由を聞き居ることとて、夫れとなく忠告せり。昼飯を馳走して四時三十七分の汽車にて出発。ミワさん駅まで送る。昨、鰻の返礼に、餅5錢のを11ヶ持行かる。余、夕食時頂くに一向甘味なし。是の分では5錢は決して安価ならず。夕餉に鰻二切れつつ頂く。藤岡姉さんは午後六時の汽車にて販る。予定をなし居たる如きも、話も竭（つ）きては長居もならず。昼食を済まして一汽車早く出発さる。余の仕事大分遅る。

昭和16年10月8日（水）

晴れ。午後より晴れたり曇ったり。午前中、日射し良き処頗る暑かりし。午後三時過ぎより冷氣襲ふ。切手請求ミワさん、請取りは余行く。猟銃免許18円を要す印紙、毎日売れ行く。拾円10枚準備す。平素は五枚なり。地況調書は一日より五日間とあり。局報注意せず。電信のみは原書に就き完了せしも、郵便は本日分より着手せり。油味噌造る。母堂天麩羅さる。匂い芳し。蝦を求め、あげらる。夕食に頂く。余の味噌、曩に砂糖を入れざりしも、今度は使用に匙入れたるも別段意識し能はざりし。午後七時西野出場、向かいの漬物屋にて四斗樽の空き桶ある趣にて、ミワさん早速行き、2, 80にて求むることにし・・・(10月9日へ続く)

昭和16年10月9日（木）

此の時、受領の為ミワさんと行く。栓を新調して引渡す。乃ち之に水を湛へ、砂箱は隣家の林氏が相材の上に雨曝しとなしあるを借用せり。尚、砂は裏に保管しありたるも、不足分追加せり。八時頃坊を寝かせ、余も傍らに臥す。ミワさん蒲団を掛け呉る。十時近くまで転寝の俣、過ごす。ミワさん汚寒を感じる由にて寝巻を着、十二時近くまで仕事す。此の日、快晴の俣暮る。

昭和16年10月10日（金）

朝冷氣強し。ミワさん昨夜38，8ありたる由なるが、今朝36度台に下がる。神様に行かず。余、坊を連れ乳貰ひに行く。朝食後、日射しよき処、坊を抱き半時間逍遙す。午後神様に坊を連れ行かる。例祭なる由。夜まで天気、快晴を持続す。八日硝子屋午前中来たり、寸法を見て更に所要数を持ち、箆込み立去る。正面為替係の部屋二枚、二階三枚。本日の公報に、長野豊後町局長退官、平原静男氏新任せり。十月六日附けとあり。九時寢床。ミワさんも早く休む。

昭和16年10月11日（土）

朝来細雨。神詣で中止。熱発38度近し。坊や連れ乳貰ひ行く。其の後二回共、余代わって行く。ミワさん起き上がりたるも、本当に恢復せしに非ざる如し。夕方近く稍降り歇む。今日は切手請求なし。道子手紙、久子問題に付き色々書き連ね越せり。がらがない野菜がないの無い、蓋し時局認識の不完全に寄依するものか。久子明日来津の由。羽織袴等持来方、速達にて発送。恰度五時半、乳貰ひに行く序でとて、中津局まで連れ行く。途中

雨に逢ひしも其の儘戻らず、間もなく歇む。足駄の横緒抜けたる為、一旦立寄り下駄と換え横田氏を訪ふ。留市氏風呂行き不在。勝恵ちゃん熱発の様。坊盛んに叫ぶ。乳不足を唧（かこ）つものの如し。午後七時半より常会。ミワさん発熱を押して参加。坊や容易に睡らず。暗黒に電燈を消して間もなく寝る。母堂襦袢乾かしに火を起こして配意さる。

昭和16年10月12日（日）

午前中晴天、次第に曇り後降雨。ミワさん熱発、朝37度。神詣でせず。余、坊を連れ乳呑ませに行く。中間分は政恵さん来て下さる。ミワさん坊を連れ駅前巡査派出所に。昨日、風呂敷包みを裏木戸の根本に置き去る。ミワさん之を咎む。所在を失す。後刻密かに開き見れば、弁当と別府湯花入りあり。弁当には鮭入れありと云ふ。受取に来たらず、届け出たるもの。停車場あたりより窃取、中味を抜き、不用の品を捨てたるものと思はる。乳の小母さんの為に、饅頭求め来たり。土産に遣る。夕食4時半済まし、坊を連れ負ふて和傘さして行く。大工さん向への家に働き、今猶継続し居る。阿爺豊中の仕事を終へて販宅しあり。今日より訓練防空演習。久子に裕羽織等、持来さしめんと、速達昨夕出したるを受領せしものと覚しく、其れ等持来る為遅れたのか、正午に不来。八時まで到着に至らず。ミワさん度々駅に迎へに出らる。夕飯も炊きて待居らる。果ては巖の家に行きたるに非ずやと疑はる。燈火管制下、地況調書を作成。出来上がらざるも中止せり。九時坊に牛乳を与ふ。

昭和16年10月13日（月）

曇り、午後より霽る。予報は的中せず。午前中一時降雨せしも、其の後、曇天の儘持続。襦袢大方乾燥せり。坊は三回目、四時三十分出発。六時近く飯る。今日も夜に至る、久子来たらず。夕食の副食物調製、久子の為に保存置かる。久子、午後七時過ぎ来る。昨歯科医かかり行き、来ること能はざりしと云ふ。母堂と寝る。

昭和16年10月14日（火）

曇り、幾分晴れ間もあり。概して、午後二時頃まで晴れ。其の後曇り。夕方六時近く降雨せしも、少時にして歇む。久子巖宅に至り、夕方近く飯り夕食を済ます。冷氣かなり寒し。坊風邪気味。湯暖房夜より当てかく。ミワさん羊羹を十本求め来らる。七本は東京峯の弟、今度女子分娩の祝品。三本は明日久子連れ、横田へ羊羹土産に持行くこととす。十時寢床。警戒警報の俣、夜を徹す。夜玄米粉を坊に遣る。乳貰ひより飯ると同時に。

昭和16年10月15日（水）

曇り、後晴れ。横田にて近所より、坊より二十日遅く産まれた女児を、一時預かり居たり。母病気の為、夜行きし時は、三人に遣ることは母体が持たぬと断りたる由。羊羹持参、挨拶し来たれる由。森田さん飯宅の由にて、髪結いに就き結髪し来れり。豊後町平原静男氏、局長としての新任挨拶に来局。間もなく司城氏、任官従軍の趣にて挨拶に来らる。十七日午後三時出発、熊本に向かふと。盛装雄々し、大剣を吊り、肩章腕章等、日露戦争当時のより立派に見ゆ。

昭和16年10月16日（木）

快晴、朝の間冷氣甚だし。坊の為、朝暖房を換え、夕食時再び換ふ。夜半、足にて蹴り着衣のみにて冷え込み居るを発見。驚き襦袢を換え、暖房近く直しやる。森田さん午後一時の汽車にて幸袋に販らる。羊羹三本遣る。東京へも道子の名にて七本、小包にて発送す。湯に六時十五分、坊を連れ行く。空襲警報発令裡、闇黒界に警戒監守員の左側通行の注意のみ聞こゆ。横田氏も嬢を連れて湯にあり、世話になれる由。

昭和16年10月17日（金）

十時、国民一斉神宮遙拝、神嘗祭。近衛首、骸骨を請ふ。午後三時、司城氏出発に付き駅に送る。中津局より多数見送りあり。切符同氏より分配。余、和服にて袴を穿きて出掛ける。次いで豊後町にて長野氏を訪ふて、永く厚誼を辱ふせし禮を述ぶ。夫れより巖方に至る。恰度、巖在宅し居る。座敷に上がり仏壇に向って禱りを提さぐ。巖は久子事件に対し、余の責任を云為（うんい）す。言、甚だ圭角あり。格別何を謂はず、六時半頃販る。夕食、ミワさん待ち居る。余迎へに、湯屋の手前まで出て居らる。坊を連れて・・・急ぎ夕食を済ます。天麩羅の馳走あり。此日、神嘗祭。

昭和16年10月18日（土）

朝来降雨。横田氏正午近くアミ煮持参。羊羹一本遣る。久子九時半巖方に行き、愛子と一緒に細川医院に至る。午後販り、七ヶ月にて、十二月末か一月初め出産と謂はる。蛋白あり、腎臓悪いかも知れぬ。猶一回診てからと云はれて販る。地況調査作成終了、発送す。五時頃雨

歇み、天気恢復の兆しあり。

昭和16年10月19日（日）

午前五時出動。警防団員として、警戒の任に衝ることになり居れり。前夜服装を整備し、坊に拭きて遣る時間さえ気問（つか）はれ、出発したるも、自動車屋内に事務所らしき体裁あるを認めず。後にて分かりしことなるが、余独りの責任なりしこと判明。八時二十五分、空襲警報発令によりて、皆集まり来る。朝飯に帰宅せしに、中途にして警報出て、急ぎ任に着く。解除に迨（およ）びて再び飯り、残飯を平らぐ。斯くて正午までに猶一回、三時間の警報あり。正午解除と同時に、余の責任も解除となる。ミワさん坊を連れ巖方に羊羹二本持参、一時間余話して来らる。久子、十二月二十三日頃分娩とあり。今七ヶ月半となり、乳豊富異常なしと云ふ。此日快晴。日中暖かなるも、朝は甚だ冷え、火気なしにては困る位。内閣各大臣氏名発表さる。

東条首相兼陸相兼内相、橋田文相、鈴木企画院総裁、小泉厚相、井野農相、嶋田海相、東郷外相、岩村法相、賀屋蔵相、寺島通相兼鉄相、岸商相、森山法制局長官、星野書記官長、谷情報局総裁。

午後八時半頃より横臥。十時改めて寢床。夜可なり寒し。

昭和16年10月20日（月）

昨夜十一時、森田さん飯局さる。八時の汽車にて到着予定の処、途中列車事故にて延着の由。大豆頂く。此日曇天の予報なりしも、最初の間は多少薄曇ありしか、漸次霽れて快晴となる。久子十時頃より愛子の家に行き、遂に泊まる旨電話あり。朝切手代払込に行き、午後受取に

行く。午後の場合、寺町進医院前にて演習講評あり。少時話を聞きて、飯りは文化洋裁研究所前にて、爆弾落下模擬演習ありて、十分以上相覧したり。午後三時頃、竹屋前にて演習、第二班より応援あり。講評に、坊やを連れミワさん聞きに行かる。坊、五時過ぎまで空腹を凌ぎ、小言を謂ふつつ辛抱す。乳呑みより飯りて、玄米粉を与ふ。七時半より寝る。

昭和16年10月21日（火）

予報は初め晴れ、後曇り。而して実際は快晴。此日駅前にて演習、一班より応援活動せりと。久子十一時半頃飯りて、坊を連れ乳呑みに行く。二時頃、巖向かえに來たり連れ行き、三時頃飯る。久子を招き何かを尋ぬ。姉ちゃんより手紙來たり、色々依頼越したるらし。どうするのかと尋ねらる。何と答えしかと問いしに、依然沈黙す。ミワさん市役所にいたり配給権を貰う為、申請用紙を貰ふ。前住地に置ける配給停止証明書の添付なければ、受付けぬとあり。米皆無に付き、手続き方、道子に葉書出す。序でに、慰安会に四人連行のことも依頼し置けり。正午防空演習終了。合同にて五百円三枚、外に債券多数請求越しあり。五百円券は郵送の為、銀行業務閉鎖の為現金払出不可能となる惧れありとて、竹折主事に交渉して、更に国債五百円参枚を要求。余、大急ぎにて受取り、郵送の分は返戻のこととしたり。此夜、常会慰安会。米五合、砂糖茶呑み椀一杯、金50銭を徴し来る。余は出席を拒絶す。七時頃、出席慫慂し来る。皆一家数名ずつ出席し、鮎の馳走あり。ミワさん一皿貰って來らる。点燈平常通りにて、更生の思ひあり。十時寢床。ミワさん十一時過ぎまで切手調査。坊、夕方湯に入り、次いで乳

貰ひより販り、八時を過ぐるも寝ねず。闇黒にて眠らす。
終日快晴。

昭和16年10月22日（水）

此日も快晴。昨合同にて五百円国債三枚、百円四枚、
其の他債券取混ぜ二千余円購入あり。国債は二十四日
より売り出し。久子午前九時頃、細川医かかり行く。供
給券は、十二月に至り交付すべき旨話さる。今遣るも品
物の配給せずと云ふ。切手請取りに行く。葉書4千枚持
来る。平原静男氏、局長拝命の挨拶。長野氏辞任の挨
拶一通として配る。

昭和16年10月23日（木）

予報は晴れ、後曇りとあり。実際は快晴の儘暮る。坊、
正午の乳貰いは久子と略定まり居る。余、通帳問題にて
照会越しの上宮永二丁目、塩塚某を訪ね、鐘紡社宅の
東貴船神社附近に得たるも、生憎、挙家不在。空しく販
局。坊、鼻風邪。久子に抱かれ頗る泣く。此朝、水桶の
水を取去り、玄関傍らに乾かして置く。ミワさん各班分配
の債券、国債手配中。夕方より薄雲棚引き、予報通りと
なる。

昭和16年10月24日（金）

快晴。三時頃より幾分曇り、次第に雲濃くなりぬ。朝より
ミワさん四方に使いす。定価格貯金には特に力を注いで
貰ふ。四時より久子湯に行き、序でに坊をも連れて貰ふ。
25分後ミワさん迎ひに行き、序でに乳貰ひせらる。道子
より速達にて、久子の配給米に付き、停止証明書送付越
し。同時にミワさん久子分の配給まで受け、白米持来ら

しむ。麦は自由に関わるる由。羊羹当分製造せぬとのことにて、十本求め来らる。時候柄一二ヶ月間は腐敗の惧れなしと。貢氏より小遣い銭なし、幾らか送って呉れと申越せし由にて、二拾円送付せりと云ふ。ミワさんは母に話し、母より送らせるやうすべしと謂はるるも、余不賛成を表示。其の俣となる。坊鼻水多く出づ。所謂、鼻風邪の類か。今日も局務に専心。守りは久子に頼む。正午の乳は久子行き、他はミワさん行かる。天気模様壊れ初む。

昭和16年10月25日（土）

曇り時々晴れ。二時過ぎより降雨ありしも、少時にして歇む。気温暖かにして暑中の感あり。普通時の着衣とて流汗。外出者は暑さに驚き、坊も汗を流し居る。午後、坊飲み不足か頗る不機嫌なり。四時過ぎ連れ行かれ、五時半頃飯り来らる。午後八時、玄米乳を与ふ。それより容易に寝らず。森田さん、午後一時の下り列車にて大分に出発さる。伊勢さん六時まで勤務。今日切手請求中止。百円前後にて殆ど毎日請求するは、回数に制限あるを以て、断られぬうち発見したるは上出来なりし。斯くて折角計算して中止せり。（睡くて何を書きしか覚えなし。）

昭和16年10月26日（日）

予報通り朔風猛に吹き募り、風寒し。甘藷の配給、一人八十匁、七人にて五百六十匁。中殿町より購求して来らる。横田氏よりも三百匁程貰って来らる。此夕、蒸して頂く。坊を連れ三回共ミワさん行かる。風強き為、襦袢乾き早し。此の夜、冷氣殊の外強く、採暖を得ざれば凌ぎ兼ねる位なり。森田さん十一時、飯局さる。

昭和16年10月27日（月）

冷氣強し。襦袢の乾きし風強き為、早く朝洗ひ乾かしたるが、朝食を済ましたる八時頃には既に乾く。晴れたり曇ったり。戸外に陽光を浴び、風に面せざれば頗る暖かし。午後より次第に風収まり快晴となる。此の朝、森田さんの土産に珍しくも餅多数を頂けると。横田氏よりも数箇頂き、更に神様よりも切り餅数ヶ賜るありて、焼き餅して満腹。昨夜の甘藷も数箇食べ、飯を食はざる二度。坊昨夜、湯に行き販りて寝る。扇状女学校の運動会のあるありて、風呂は汗流しの客殺踏の姿とありし。午後九時ミワさん急に風呂行き。坊を入浴せしめんとす。乃ち九時五十分頃、三十分弱遅れて連れ行く。暖まりて来たりし為か、夜を徹して一度も小用せず。三度程注意、夜半検査するも濡れ居らず。黎明に及ぶ。

昭和16年10月28日（火）

昨夜、余食べ過ぎたる如く、胃の停滞物皆吐き出す。今朝氣持良し。野口さん下痢、出勤せず。前田さん窓口事務に衝たる。十時過ぎ起き出で出勤。補助的執務をなす。余は味噌今日にて没有。午後七時より火鉢瀬戸物を漁る。高価にて、十円台を出さねば氣に入りたるものなし。夜火鉢アンカに、火を採らせ採煖。其の代わり睡さは眠し。午後九時、坊を連れ湯に入らしむ。ミワさん母堂二十五分前行かる。此日快晴。坊を連れミワさん外出数度。坊の襦袢の取り換え毎に叫哭す。差し出しても容易にせぬ。出ぬものとして襦袢をすれば、忽ち濡る。此の夜は坊、克く眠る。

昭和16年10月29日（水）

快晴。切手請求。印紙なし、葉書四千枚請求。朝、坊一時間余り睡りしのみ、起き出でて泣く。抱きて眠らす。此の夜も行火を用ふ。昨、横田小母さん四時頃来たり、乳を呉れらる。頃日甘藷、餅、葱等、屡々頂きし禮を述べ。勝恵ちゃん計量、正八匁（キログラム）。坊は六匁ありし。昨日程冷えず。本朝、胡麻油にて味噌を造る。昨夜、坊を連れ瀬戸火鉢をミワさんと共に漁りしも、今夜も是非火鉢を求めたりとて、余を連れ出さんと焦慮。余は之を退けしも、遂に我を折り、坊を寝せたる俛、母堂に任せて外出。田洪の隣家の陶器店より、七円五拾銭にて需め販る。九時坊を連れ湯に届く。ミワさん先に入り居る。十時半頃販宅。余は十一時二十分寢床。福日に見学許可を照会す。

昭和16年10月30日（木）

初め晴れ、次第に曇り。時々晴れ、北風強く可なり寒し。切手請求なし。午後九時、坊を連れ湯に行くこと前例の如し。お襦、汚すこと甚だし。五分間たたぬうちに小便す。身体冷える為と覚ゆ。夜晴れ、月影鮮やか。久子天麩羅して遣はす。夕飯に馳走になる。種物に人参葉、牛蒡、海老、葱等。朝鮮行き別便配達料の件に付き、中津局主事と接渉す。

昭和16年10月31日（金）

快晴。朝の間は如何かと恠（あや）しまれたり。富永より印紙二百九十四円請求あり。今朝切手類多数ありしも、葉書を多数備え置く要ありと、立替の上、請求取計らい置きしものとす。仍って富永分追加。余、金額払込みに

行く。坊十一時頃まで眠る。慰安会費積立、拾五円六拾錢の払戻しをなし、四人に各3,90錢交付す。多忙の為坊を守りし能はざりし。此夜九時、突然甚十郎氏、我等事務に忙殺され居る際、顕はれ驚きたり。数ヶ月振りの来訪。小倉工廠と八屋の製鋼所とに、社用の出張の序でに、長崎に足を延ばすとのこと。母堂の傍らに寝らる。十一時半頃、寢床。